第４学年１組　音楽科学習指導案

指 導 者　影山　恵美

展開場所　音楽室

１　題材名　　「かけ合いや重なりのおもしろさを味わおう」（５時間）

教材名　　鑑賞　　　　「水上の音楽」から　アラ　ホーンパイプ　作曲　ヘンデル

　　　　　表現（歌唱）もみじ　作詞　高野辰之　作曲　岡野貞一　編曲　中野義見

　　【本題材で扱う学習指導要領の内容】

　　　Ａ表現(1)歌唱の事項　ア，イ，ウ(ｳ)

Ｂ鑑賞(1)鑑賞の事項　ア，イ

〔共通事項〕(1)ア

　　　　　　・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

　　　　　　　　音の重なり，呼びかけとこたえ

２　題材について

　（１）題材の目標

　　○曲想及びその変化と，音楽の構造との関わりに気付くとともに，思いや意図に合った表現をするために必要な，互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付ける。（知識及び技能）

　○音の重なり，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲のよさを見いだして曲全体を味わって聴いたり，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもったりする。（思考力，判断力，表現力等）

○かけ合いや重なりの面白さを捉えて聴く学習や，曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う学習に興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組み，オーケストラの響きや二部合唱に親しむ。（学びに向かう力，人間性等）

　（２）題材設定の理由

本題材は，かけ合いや重なり，曲全体の形式に気付いて聴いたり，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取り，表現を工夫して歌ったりすることをねらいとしている。「アラ　ホーンパイプ」では，楽器の音色や旋律の違いに気付くことができるよう，音楽から聴き取ったことを，楽器ごとの札を挙げたり，言葉で伝え合ったりする活動を取り入れる。その際，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴く楽しさを感じられるようにする。「もみじ」では，「アラ　ホーンパイプ」の鑑賞で学習した，音のかけ合いや重なりが歌唱でもあることに気付くように曲を繰り返し聴かせる。そのことにより，曲の特徴を捉え，どのように歌うかについて思いや意図をもって表現できるようにしていきたい。

　（３）児童の実態（男子13名　女子11名　計24名）

　　　本学級の児童は，元気で明るく，意欲的に音楽活動に取り組んでいる。朝の歌や音楽の授業で曲が流れると，自然と体を動かしたり指揮をしたりするなど，音楽に触れ合うことに親しみを感じている児童が多い。３年生では，「メヌエット」「ファランドール」の鑑賞を通して，楽器の音色の違いや反復，変化，旋律の重なりを聴き，聴き取ったことを体の動きやハンカチで表現する活動を行った。４年生では，「プパポ」の二部合唱において，呼びかけとこたえに分かれて体の動きを真似するなど，かけ合いの楽しさを実感できるような活動を行った。曲の後半では，２つの旋律の動きをそれぞれ体で表現することで，異なる旋律が重なっていることを楽譜上だけでなく感覚でとらえられるようにした。かけ合いや重なりを歌や体の動きで表現することを楽しんで取り組んでいるようであったが，学習後の感想では，「楽しかった」「面白かった」という答えのみの感想が多かった。これは，題材のねらいに沿った発問ができていなかったり，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える場を設ける時間が少なかったりしたことが原因であると考える。本題材を通して，かけ合いや重なりが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができるようにしたい。クラスには，集中力が続かない児童がいるため，立つ，座る，札を挙げる等の動作を取り入れたり，活動内容を明確に指示したりすることで，集中して楽しく学習に取り組むことができるようにしていく。

　（４）指導観

　　　「アラ　ホーンパイプ」は，組曲「水上の音楽」の中の一曲であり，王宮の舟遊びのために作られた曲である。ニ長調，３／２拍子，Ａ‐Ｂ‐Ａの三部形式になっている。Ａは，弦楽器から始まり，トランペットとホルンが明るく華やかにかけ合うのに対し，Ｂは短調になることで，ＡとＢの違いが分かり易くなっている。「アラ　ホーンパイプ」の鑑賞では，楽しみながら何度も曲を聴く場を設けていきたい。この曲に出てくる弦楽器やトランペット，ホルンの音は児童にとってあまり身近ではない。聴いたことがある楽器の音色でも，直接楽器に触れる機会はほとんどない。そのため，曲を聴く際は毎回目的をもたせながら，繰り返し曲に触れる機会を設け，児童がよりじっくりと鑑賞できるようにしていく。また，楽器によるかけ合いや重なり，変化に気付くことができるよう，楽器ごとに担当を決め，楽器の札を持ちながら鑑賞する。担当の楽器の音が聴こえたら札を挙げることで，自分の担当の楽器だけではなく，他の楽器の音色にも気付くことができるようになると考える。聴き取ったことや感じ取ったことを話し合う場面では，chromebookのJamboardの中にある付箋機能を用いて意見を交流する。Jamboardは，グループごとに同じ画面に打っていくため，多くの意見を自由に見ることができ，スムーズに感想を交流することができると考える。全体で確認する際も，班ごとの意見を全体に示し，多くの意見を取り上げていく。黒板には聴き取ったことと感じ取ったことに分けて板書し，感じ取ったことの理由を聴き取ったことから見いだし，線でつなげることで，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができるようにしていく。Ｂの部分や，最後のＡの部分を鑑賞する際は，次がどんな曲想になるか予想を立ててから聴くようにする。児童は，「次はどんな雰囲気になっているのだろう」と関心をもちながら曲に耳を傾けるであろう。第３時では，「おすすめ紹介文」を書く活動をする。曲全体のよさや面白さを保護者に伝えるという相手意識をもつことで，より意欲的に紹介文を書くようになると考える。これらの活動を通して，かけ合いや重なり，変化といった音楽の構造から，音楽のよさや面白さを感じ取ることができるようにしたい。

　　　「もみじ」は，ヘ長調，４／４拍子，Ａ(aa’)Ｂ(bc)の二部形式となっており，前半の８小節は下声部の旋律が上声部の旋律を追いかけ，後半には３度の響きを保ちながら両声部の旋律が重なる編曲になっている。「アラ　ホーンパイプ」で学んだかけ合いと重なりがあることに気付くことができるよう，楽譜を指でなぞったり，体の動きで表現したりしながら曲を聴く。かけ合いや重なりのよさを生かしながら表現の工夫をすることで，思いや意図をもって歌うことができるようにしていく。

３　題材の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①知曲を聴く場面において，曲想及びその変化と，音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑賞）  ②技二部合唱をする場面では，思いや意図に合った表現をするために必要な，互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けている。（歌唱） | 思①音の重なり，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴いている。（鑑賞）  思②音の重なり，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌唱） | 態①かけ合いや重なりの面白さを捉えて聴く学習や，曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う学習に興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 |

４　指導と評価の計画（５時間扱い）（本時２/５時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時配 | ◎ねらい　〇学習内容　・学習活動  ☆〔音楽を形づくっている要素〕 | ○教師の発問や働きかけ  ・目指す児童の姿 | 評価の観点  <評価方法> | | |
| 知・技 | 思 | 態 |
| 第一次 | ◎「アラ　ホーンパイプ」の曲のかけ合いや重なりをもとに，曲全体を聴く。 | | | | | |
| 第１時 | 〇「アラ　ホーンパイプ」のＡの部分の特徴を捉えて聴く。  ・曲冒頭を聴き，どのような楽器が使われているか話し合う。  ・トランペットとホルンの楽器や映像から，それぞれの楽器の音色の違いを確認する。  ・弦楽器，トランペット，ホルンの３つのグループに分かれ，演奏している楽器の音色に気を付けて聴く。  ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて話し合う。  ・板書を見ながら静かにＡの部分を聴く。  ☆〔音の重なり　呼びかけとこたえ〕 | ○楽器に興味がもてるよう，二つの楽器の音色や演奏方法を示す。  ○楽器の音色に着目できるよう，楽器が描かれた札を動かしながら聴く。  ○多くの意見を出して話し合えるようchromebookの付箋機能を用いる。  ・トランペットとホルンがかけ合っていて，追いかけっこをしているみたい。  ・最後に楽器の音が重なっていて，楽しそう。 |  |  |  |
| 第２時（本時） | ○「アラ　ホーンパイプ」の曲想の変化を感じ取って聴く。  ・ＡとＢの部分を聴き，使われている楽器や曲想が違うことに気付く。  ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて話し合う。  ・曲全体を聴き，Ａの旋律が繰り返されていることに気付く。  ☆〔音の重なり　呼びかけとこたえ〕 | ○楽器の音色に注目させ，弦楽器が中心となっていることに気付けるようにする。  ○多くの意見を出して話し合えるようchromebookの付箋機能を用いる。  ・かけ合いがなくてＡよりさびしい感じがする。  ・トランペットとホルンの音の重なりがないので，踊りを休んでいるみたい。 | ①知〈記述・発言・観察〉 |  |  |
| 第  ３  時 | ○「アラ　ホーンパイプ」の曲のよさや面白さ，美しさを味わいながら聴く。  ・曲全体を聴き，気付いたことを交流する。  ・かけ合いや重なり，旋律の変化等を振り返る。  ・曲のおすすめ紹介文を書き，友達と交流しながら，曲のよさや面白さに気付く。  ☆〔音の重なり　呼びかけとこたえ〕 | ○前時までに学習した楽器や旋律の変化，気付いたことなどの掲示物を提示する。  ○曲全体から聴き取ったことと感じ取ったこととを書くことができるワークシートを用意する。  思①〈記述述・発言〉  ・楽器が重なって踊っているみたいなところが好き。  ・楽器がかけ合っていてお話しているようで面白い。 |  |  |  |
| 第二次 | ◎「もみじ」の旋律のかけ合いや重なり等の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。 | | | | | |
| 第  ４  時 | ○曲の特徴を捉え，どのように歌うかについて思いや意図をもつ。  ・範唱を聴き1，2番の歌詞の内容について話し合う。  ・「アラ　ホーンパイプ」と同じで，かけ合いと重なりがあることに気付く。  ・上声部と下声部を歌う。  ・旋律の特徴から，どのように歌いたいか考える。  ・歌い方の工夫についてワークシートに記入する。  ☆〔音の重なり　呼びかけとこたえ〕 | ○歌詞のイメージがもてるよう，もみじの写真を掲示する。  ○意識しながら歌うことができるよう，工夫する点を楽譜に書けるようにする。  ・前半はかけ合いになっているから，話しかけるように優しく歌いたい。  ・後半は音が重なっているから，美しい響きで盛り上げて歌いたい。 |  | 思②〈記述・発言・聴取〉 |  |
| 第  ５  時 | 〇曲の特徴を捉えた表現を工夫し，二部合唱で歌う。  ・旋律のかけ合いや重なりを感じ取りながら，二部合唱する。  ☆〔音の重なり　呼びかけとこたえ〕 | ○工夫した表現になっているか確認するために，歌を録音して聴くようにする。  ・かけ合っているところは優しく歌えた。  ・音が重なるところがきれいに歌えた。 | ②技〈記述・発言〉 |  | 態①〈観察・記述・聴取〉 |

５　本時の指導（２／５）

（１）本時の目標

曲想及びその変化の働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら聴く。

（２）本時の展開

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時配 | ○学習内容・学習活動  ☆〔音楽を形作っている要素〕 | ○教師の働きかけ  ・目指す(予想される)児童の姿(記述・工夫・発言例) | 評価の場面  〈評価方法〉 | | |
| 知・技 | 思 | 態 |
| ３  ５  ５  ２  １５  １０  ５ | ○リズム遊びをする。  ○前時を振り返り，Ａの部分の特徴を確認しながら聴く。  ・トランペット，ホルン，弦楽器の３つに分かれ，楽器の音が聴こえたら札を挙げる。  ○鑑賞曲「アラ　ホーンパイプ」のＡとＢの部分を聴く。  ○本時の目標を確認する。  「アラ　ホーンパイプ」の曲全体を聴いて，よさやおもしろさを探そう。  ○鑑賞曲「アラ　ホーンパイプ」のＢの部分を聴く。  ・楽器や曲想の変化について話し合う。  ・ＡやＢの部分を聴き，聴き取ったことや感じ取ったことを Jamboardに打ち込む。  ・グループの友達と意見を交流する。  ・聴き取ったことと感じ取ったことと関わりがある意見を確認する。  ☆〔音の重なり，呼びかけとこたえ〕  ○曲全体を聴く。  ・次の曲想を予想する。  ・曲全体を通して聴き，Ａ‐Ｂ‐Ａの形式に気付く。  ・最初のＡと最後のＡの違いについて話し合う。  ○曲全体を静かに聴く。 | ○教師のリズムと同じリズムを繰り返し，徐々に難易度を上げる。  ○リズムがかけ合ったり重なったりする面白さを味わえるようにする。  ○前時の学習を想起できるよう，掲示物を示す。  ○互いに札の動きを見合いながら行うことで，特徴を捉えやすくする。  ○Ｂの部分の旋律を予想してから聴くようにする。  ・Ａよりもっと楽しい感じだと思う。  ・Ａより暗い感じだと思う。（発言）  ○楽器の種類や曲想の変化に注目するよう助言する。  ○聴き取ったことや感じ取ったことを考える際，ＡやＢの部分の曲を繰り返し流す。  ○ chromebookの Jamboardを使い，グループごとに意見を出す。  ・トランペットやホルンの音が聴こえない。  ・かけ合いがないから，さびしい感  じに聴こえる。  ・楽器の音の重なりがない。  ・暗い感じに聴こえる。（記述）  ○曲全体を聴く前に，最後はどのような曲想になり，どのような楽器が出てくるのか，予想しながら聴くよう伝える。  ○児童の表情やつぶやきを拾い，聴き取ったことと，感じ取ったことを言葉で表現できるようにする。  ①知〈記述・発言・観察〉  ・またＡが出てきてうれしい。  ・最後は１回だけだった。  ・また音のかけ合いや重なりが出てきた。  ・最後は明るく終わりたかった。（発言）  ○板書を見ながら静かに聴くよう伝える。 |  |  |  |

（３）板書計画

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　１回だけ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　最後はゆっくり

「アラ　ホーンパイプ」の曲全体を聴いて，よさやおもしろさを探そう。

。

。

Ｂ

聴き取ったこと

・弦楽器の音は聴こえる。

・トランペットとホルンの音が聴こえない。

・かけ合いがない。

・低い音が多い。

感じ取ったこと

・さびしい感じに聴こえる。

・暗い感じがする。

・踊りを休んでいる。

・落ち着く

Ａ

（４）本時の評価

|  |  |
| --- | --- |
| 「十分満足できる」状況（Ａ）と判断される例 | 曲全体から，音色や曲想，ＡとＢの特徴の違い，音楽の構造等に気付いている。 |
| 「努力を要する」状況（Ｃ）と判断されそうな児童への働きかけの例 | 前時に学習した掲示物を示しながら，ＡとＢの特徴の違いに気付くように言葉かけを行い，Ｂの特徴を捉えることができるようにする。 |

４年　　組　名前

曲名「　　　　　　　　　　　　　」　作曲者（　　　　　　）

♪「アラ　ホーンパイプ」の曲のよいところやおもしろいところは、